

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・「話すこと・聞くこと」に関しては、スピーチ大会の実施や、教室に話し方ルール聞き方ルールを掲示して継続した指導を行ったことによって、自分の思いや考えを発表することに自信が付いたり、話し手を見て意図や話の内容を考えながら聞いたりすることができるようになってきた。
- ・「書くこと」に関しては、相手や目的・意図に応じて、適切に文章を書くことができるようになるために、型を示したり文章の構成を示したりすることで、目的や意図に沿った文章を書くことができるようになってきた。
- ・「読むこと」に関しては、説明的文章において、段落の働き、段落構成、段落相互の関係などに重点をおいて指導してきた結果、文章の読み取りが正しくできるようになってきた。文学的文章においては、場面の变化、登場人物の心情の変化、情景描写などに重点をおいて指導してきた結果、物語の内容を深く理解することができた。
- ・「言語についての知識・技能」に関しては、MIMの年間計画に従って継続して指導を行ってきた結果、基礎・基本の定着が見られた。また、国語辞典、漢字辞典を身近に置かせ、日常的に活用させることで語彙を豊かにすることができている。

(2) 課題

- ・「話すこと・聞くこと」に関しては、話し合いの際に司会の役割を果たしながら、意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめることができるように指導していく必要がある。そのためにも、自分の思いや考えを確立し、他者に発信する練習を継続して行っていく。
- ・「書くこと」に関しては、文章を書くことに対して苦手意識が強い児童が多い。例文や型を示したり文章の構成を示したりして文章を書く経験を積み重ねていく。また、国語科以外の教科でも学習感想や新聞づくり、学習のまとめの短作文など、文章で表現する場面を設定し、文章を書く力を伸ばしていく。
- ・「読むこと」に関しては、文学的文章よりも説明的文章に苦手意識をもっている。特に叙述を基に文章の内容を捉えることができていない。キーワードやキーセンテンスを捉える学習を繰り返し、文章の内容を捉える力を更に伸ばしていけるようにする。
- ・「言語についての知識・技能」に関しては、漢字を書く、主語・述語の関係、ローマ字の読み書き、和語・漢語・外来語、漢字の由来などの定着が弱く、繰り返し指導を行う必要がある。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率(経年比較) 目標値と比較 △:目標値以上 ▽:目標値未満

|      | 令和7年度結果               | 令和6年度結果                   | 令和5年度結果                                 |
|------|-----------------------|---------------------------|---|
| 第4学年 | 知識・技能 ▽<br>思考・判断・表現 △ | 知識・技能 ▽<br>主体的に学習に取り組む態度▽ |   |
| 第5学年 | 知識・技能 ▽<br>思考・判断・表現 △ | 知識・技能 ▽<br>主体的に学習に取り組む態度▽ | 知識・技能 ▽<br>思考・判断・表現 ▽<br>主体的に学習に取り組む態度▽ |
| 第6学年 | 知識・技能 ▽<br>思考・判断・表現 ▽ | 知識・技能 ▽                   | 知識・技能 ▽<br>思考・判断・表現 ▽                   |

## (2) 分析 (観点別)

### ① 中学年

| 知識・技能  | 思考・判断・表現   |
|--|--|
| 目標値より下回るという結果が出ている。漢字のへんやつくり、国語辞典の使い方についてはおおよそ理解することができている。一方、漢字の読み書き、ローマ字の習得ができておらず、主語と述語の関係も理解ができていない。 | 目標値より少し上回るという結果が出ている。話し合いの内容を聞き取ったり、文学的文章、説明的文章の内容を読み取ったりすることができている。一方で、話し合う活動の中で司会の役割を果たしながら考えをまとめたり、文章を書く際に書く内容の中心を明確にして文章の構成を考えたりすることが苦手な児童が多い。 |

### ② 高学年

| 知識・技能   | 思考・判断・表現  |
|---|---|
| 目標値より下回るという結果が出ている。漢字を正しく読むことに関してはおおむねできている。また、言葉の学習で連用修飾語についても理解することができている。一方で、漢字を正しく書くことができず、敬語や和語・漢語・外来語、漢字の由来などについて理解することができていない。 | 目標値より上回るという結果が出ている。文学的文章で登場人物の気持ちについて叙述を基に捉えたり、説明的文章で中心となる語を見つけて要約したりすることができている。一方で、文章を書く際に、目的や意図に応じて伝えたいことを明確にして書くことが苦手な児童が多い。 |

## 3 授業改善のポイント (観点別)

### (1) 低学年

| 知識・技能   | 思考・判断・表現  |
|---|---|
| 主語と述語の関係を正しく理解したり、話したり書いたりできるようにするため、国語科の学習だけでなく、日常的に指導をしていく。また、漢字の学習については、ドリルやプリントなどを活用し、繰り返し練習させて定着を図る。 | 文章の読み取りはできているが、自分の思いや考えを書くことが難しい。書く機会を多く設けて、例や型を示すなどして指導を行っていく。 |

### (2) 中学年

| 知識・技能  | 思考・判断・表現   |
|--|--|
| 漢字を正しく読んだり書いたりすることができていない。文章を書く際に学年相応の漢字を正しく書く指導を国語科以外の教科でも行っていく。また、日頃より文章を書く際には正しい主述の関係で書くことができるように指導していく。ローマ字についても身に付いていないので、繰り返し練習させて習得させる。 | 文章の読み取りはできているが、話し合い活動の中で考えをまとめる力が身に付いていない。国語科以外の教科でもペアや小グループの話し合い活動を多く設けて、意見をまとめる力を付けていく。また、文章を書く力もないので、型を示したり、文章の構成を示したりして指導を行っていく。 |

### (3) 高学年

| 知識・技能   | 思考・判断・表現  |
|---|---|
| 言葉に関する学習が習熟していない。文章を読んだり書いたりする際、和語・漢語・外来語や敬語などを意識できるように指導していく。また、漢字を正しく書くことができていないので、ドリルやプリントなどを活用し、繰り返し練習させて定着を図る。 | 目的や意図に応じて文章を書いたり考えをまとめたりすることができるように、型を示したり文章の構成を示したりして指導を行い、文章を書く力を付けていく。 |